

# ひろば大代

NO. 182

大代公民館

## 祝敬老の日

大代町



多年に亘り地域に貢献、あるいは子弟の育成に努めて頂いた御老人の方々に対し、国民こそって感謝の意を表し長寿を御祝いする日であります。

大代町では九月十五日（木）午前十時半から中学校屋体に於て百九六名の方々を対象に敬老会を開きます。

町内の皆さん、御協力の程よろしくお願致します。

		男子	70代	
		女子	80代	
計	136	85	51	70代
	53	26	27	80代
	7	6	1	90代
	196	117	79	合計

★米寿の祝（八十八才）三名（敬称略）

今田正光（右原）M、38、10、24

笠岡キクノ（弓久）M、39、1、8

藤田権現（下市）M、39、3、29

★喜寿の祝（七十七才）十名

窪田繁太郎、山田忠三、永井忠義

原田末美、増田長之助、松井シゲノ

高橋加津代、角親善、山根繁人  
松原ミツコ

★新入会員 十九名

米寿を迎えて

下市 藤田権現



私事、明治三十九年三月二十九日生まれの満八十八の歳となりました。

思い起こせば数々の不幸な戦争などいろいろなことがありました。私が、石清水八幡宮に司を拜命致しまして十六年になります。お陰様にして大過もなく日々を送らせて頂いて居ります。これも偏に皆様方の御協力の賜物と心より感謝申し上げます。

また毎月届けて頂きます婦人会の皆様、の真心のこもった福祉弁当や、小学校の児童の皆様、の楽しく和やかな慰問など、地域の皆々様の御愛念を頂き、また、神仏の御加護によりまして毎日元気で過ごすことが出来ますことに、唯々有り難く感謝の生活を頂いて居ります。

最後に大代町の皆様、の御健勝と御繁栄を御祈念申し上げます。

初めて敬老会に招かれて

川上 笠井岩義

市を始め、大代町各団体の方々の暖かい御援助を有り難く、感謝して居ります。

振り返ってみますと、夢のように年月が過ぎ、いつの間にか古稀を迎えて苦しみ、喜びや悲しみの多かつた人生でした。人間誰しも苦の多いのが世の中です。

今、「戦後五十年」と言う言葉を聞く時、戦中戦後の変化の激しい時代の波を乗り越え、物資、食糧とも豊富で老人医療の整った福祉社会の恩恵の中の今日、老後を迎えることを感謝しながらこれからの人生を少しでも迷惑をかけないで、愛される老人になるよう心掛けて一日一日を大切に送りたいと思っております。

古稀を迎えて

平 武田絹枝

多年にわたり社会のために尽くされた云々とある敬老会の案内を頂きました

た。

傍で主人が「嬉しかろう」と言うが私は嬉しくないのです。

女性の平均寿命が八十三才となった今七十才で高齢者の仲間入りとはピンと来ないのです。大田市での高齢化が一番の大代、七年後には二人に一人が高齢者となる時代に、七十才で年寄り扱いにされるのでは若い世代に長く迷惑をかけることになります。もう五年頑張らせて下さい。

高齢化社会で生き抜くためには先ず体の健康のことを考えなくてはならないと思います。自分で健康管理に心がけ人に迷惑をかけないようにすることが一番です。

そしてこの世に生を受け、今日まで生き長らえたことに感謝の気持ちを持ってはならないと思います。若くして亡くなられた先輩方のことを思うにつけ、皆様のおかげで生かされていることに感謝しております。有難うございます。

ともあれ、私が提唱したいのは長寿の祝を受けるなら、七十五才として頂きたいと思うのです。

第九回都市交流会を終わって

関西事務局長 中本 弘

ふる里と都市交流会が盛会のうちに終わったことを心からお祝い申し上げます。八月十七日、関西高山会の役員山口正晴氏から交流会の件についてお聞きしたところ、公民館長様を始め、後藤婦人会長等々町の有力者の方々から歓待を受け、心温まるもてなし、本人自身感激したと言っていました。本を先ず報告させて頂きます。

彼も苦しい人生の道の中から、今日の地位を築いた者であり、会社では人を使う立場、それだけ感受性も強く感激屋でございます。

彼と一緒に飲んだ際、「本当によくしてくれた」と涙をためて私に報告していました。また公民館長様の大代の歴史の講演についても、本当に良く勉強しておられるとも。

ふる里大代町を共有する者の集まりであり、心のふる里が心だけでなく、現実においても「一度帰ってみたい」と思うようなふる里の実現に及ばずながら、私共協力させて頂く所存でございます。

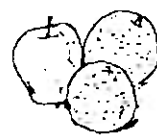
います。

残暑厳しく水不足のために大変かと存じますが、更なる活躍を心からお祈り致します。

戦没者五十回忌

追悼法要を終わって

西臨寺住職 荒本忠宗



連日の猛暑の中、百日紅が満開に咲き誇った当山において、去る八月十八日に戦没者五十回忌追悼法要を勤修させて頂きました。

戦時中から厳修されて今日まで、五十有余年続けられたこの法要を、五十回忌という区切りで締めくくった方がよからうということが三団体の協議会で決定し、当山がそのご縁に恵まれたこと洵に有り難いことと思えます。

たまたま本年度の当番寺院として、導師をつとめさせて頂いたこと、終生忘れ得ぬこの上ない喜びで、一生懸命お世話させて頂きました。

当日は、行事鐘によって一同着座、開会の辞と共に法要が始まり、婦人会寿会の方々によって尊前に献花、献灯

献香が厳かに行われました。続いて導師登礼盤、三奉請と法要が進んで行く内、導師として一番大切な表白を読まなければなりません。感激して胸がつまりそうになりました。

表白とはその法要の趣旨、願意を一切の三宝および大衆に告白することであり、その文をいうのであります。従って導師はこれをつくるのに精魂を傾注するのであります。ご参詣になられた方は、聴聞して下さったと存じますが、戦争の悲惨なこと、戦死という事実の前に今日の平和があるのですが、経済大国といわれる恵まれ過ぎた日本の現状は、ややもするとそのことを忘却して欲望のままに生活を享樂する風潮がなきにしもあらず。煩惱が甚だ盛んで、愛欲、猜疑、僞慢、鬭争心、これらの固まりである人間であることに気づかせて頂き、再び戦争への道を歩まない決意を新たにし、命を抛げうって平和の礎となられた、これら戦死なさった方々を偲び、如来の大悲を信受してお念仏相続の人生を歩んで、往生したら再びお浄土で再会する喜びを、お互い共々に分かちあいましょ。と

いうような趣旨の表白を仏前で読ませて頂きました。

満開の百日紅は、私が生まれる前から西臨寺の庭にありました。今年はこの法要にあわせ一杯に咲いてくれました。木は悲惨な戦争のことも、戦死なさった方々のことも本日の法要のこともみんな知っているように思えます。だから仏前にたむけさせて頂き、お莊嚴の中心の役割を果たしてくれ、百日紅も法要のご縁にあつて、喜んでくれたと思います。

私達は追悼の念を新たにすると共に心から心へ悲戦平和の大切さを次代へ伝えねばなりません。戦没者の方々の尊い犠牲、その悲しみ、いたみを決して忘れてはならないと思います。

### ルアーフィッシングの楽しみ

八反田 長谷保孝

私の趣味の一つに魚釣りがあります。その中にルアーフィッシングという耳慣れない釣り方があります。これは餌の代わりにルアー（疑似餌）を糸の先につけて投げ、それをリールで巻き取

ることによって魚を誘う釣り方で、そのルアーの種類によっても釣れる魚は変わってきます。

この釣りを始めたのは広島にいた十数年前のことで、知り合いに誘われ半信半疑でやってみるうちにブラックバスという魚が釣れ、そのうちに河口でスズキがいくらでも釣れるようになったことから、だんだんのめり込んでいきました。

この釣りの楽しみは釣ることはもちろんですが、色々なルアーや道具を集め、自慢することも楽しみの一つでしょう。しかし、夜のスズキ釣りは別として、大自然の中をポイントを探しながら歩き回ることこそ健康的で、しかも自然にも親しむことができる最大の楽しみではないかと思えます。そして釣った魚は逃がしてやる。「キャッチ・アンド・リリース」逃がしてやること心の充実感が何ともいえぬ満足感に変わるとき心身ともにリフレッシュされたような気がします。これがルアーフィッシングがスポーツフィッシングと呼ばれる所以であると思えます。

—大代の古跡をたずねて—  
山辺八代姫命神社 (飯谷の巻)

植松 渡 吉正

朝に夕に仰ぎ見る大江高山の勇姿、その頂上には太古の昔、高山大明神がお祀りしてあり、里人は険しい山道を登りつめて折願を行ってきました。

本参道は飯谷が原から西参道は山田が原からで、東参道は祖式村の伊勢階からでした。

平安時代の延暦二年(七八三)正月大和国(奈良県)は宇多郡山辺笠幡宮より天照大御神の分霊を高山へお迎えして鎮座されました。

時代は降って、安土桃山時代の天正三年(一五七五)本殿は山腹に建立されました。その時の大檀那(施主)は芸州(広島県)の武将毛利輝元(元就の孫)だと島根県史籍原簿(写)に載せてあります。

私が以前調べた中では現存する棟札で一番古いものが、江戸時代中期の享保六年(一七二一)十月三十日のもので、大檀那は大森代官竹田喜左衛門、神主は原田美濃(大家八幡宮の神主)

庄屋は大森弥惣兵衛(祖式の篠原さんの先祖)、頭百姓は小戸源十郎(平武田勇さんの先祖)そして本願主はカリ蔵助重郎(飯谷の本武田さんの先祖)外惣産子中(氏子)と墨書してありました。

神社への参道は杉、松の大木が林立しており、石段右側には山桜の大樹(大田市内では最大)が天空にそびえ立っています。これは天然記念物(指定文化財)として保護されることを特に望むものです。

この神社の例大祭は以前は十月十一日でしたが、近年は四月最初の日曜日設定されています。

山辺八代姫命神社は何分高山の麓にある所から近年、山田の前八代小学校々舎跡地へ遷拝所が建設され、祭事はそこで行われる様になりました。

前夜祭の神楽奉納は夜引いて(徹夜)行われる程の賑やかさです。

山辺八代姫命(尾張系の山辺県主の祖、建麻利尼命のことであるといわれています。つまり山辺八代姫命は天照大御神という考え方です。

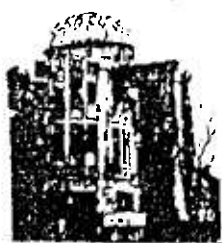
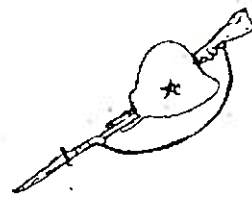
八代・新屋(近代(明治以降))には

大代町に名が変わるまで近摩郡八代村でした。これは八代姫から撰って村名としたものようです。

また近世(江戸時代)には新屋村と付けたのは古代に入植した尾張系の山辺族が新居(新屋)を建てて集落を造った名称を村名にしたものと考えられます。中世(室町時代)までは大家東郷でした。

戦争を知らない子供達

八反田 三宅計昌



「元気なうちに一度行きたい」と言い始めた父を連れてシンガポールに行ったのは、父が一九四二年二月十五日のシンガポール陥落の時に参戦していたと、幼い時から聞かされていたからである。した事もない親孝行の真似事でもと考えた。

英軍の機銃敵前渡過したというジョ

ホールパール水道で、父はある地点を指差し、「あそこから船に乗り、この水道を渡ったんだ。あの時もこんなに暑かったな。私達は砲兵だったから、最前線で戦う事はなかったけども、それでも多くの親しかった戦友が死んだ」と言った。わずか数百mのこの水道は、今陸路で繋がり歩いてでも渡れる。ジョホールから見ると、水道の向こうに静かな海面に映るシンガポールの森の緑が美しい。話で聞き、本で読み、教科書で学んだ歴史が目の前で生きていた。

シンガポールの市内から少し南にセントーサ島がある。今は美しい海岸や水族館、植物園等で日本人観光客も必ず来る観光地である。その一隅にひっそりと戦争記念館が建っている。かなり大きな建物であるが、ここには旅行の添乗員も日本人観光客を連れてこないと聞く。なぜか？中に入ると、シンガポールの生い立ちから始まる歴史が人形と文章で展示してある。それも面白くもおかしくも無く延々と続く。が、退屈し始める頃から様子が一変する。太平洋戦争が始まるくんだり辺りから、

そこには生々しい日本人の軍服姿が出てくる。それらはビデオで再生されるものであったり、人形であったり、絵であったり。私共日本人が見てもこれは普通では正視出来ない。シンガポールで日本人の犯した多くのあやまちについて展示してあるコーナーもある。悲惨である。最後に広島に落とされた原爆に関してのコーナーがあり、東南アジアの人々がこの原爆をどう見ていたかも良く解かる。

私にはここで見た事をこれ以上はもう書けないが、我々日本人が過去の歴史としてもうとつこの昔に忘れ去ろうとしている戦争体験を彼等は決して忘れない。

一九六一年、この頃からシンガポールの工事現場の土の中から多くの人骨が見付かった。又先程のセントーサ島の美しい海岸の砂浜の中から多くの人骨が掘り出された。調べていく内に、日本軍のシンガポール占領中に「大検証」の名のもとに日本軍近衛師団（いわゆる憲兵隊か？）に大虐殺された中国人華僑の遺体であることが判明した。なんとその数およそ四万。現場であ

るウェスチンホテルの横には今慰霊塔が建っている。これを血債の塔と呼ぶ。そこから少し離れた場所にある孫文記念館に、掘り起こされた遺品、遺物等が展示してある。父とそこにも訪れた前もって多少の知識は有り覚悟はして行ったが、余りの悲惨さ、愚かさ、情け無さ、筆舌に尽し難い状況に惨めに打ち砕かれてしまった。ここで見た事を文にする才能のないことが残念である。父は「私は知らなかった」と言う。当然である。

これも前もって調べていた事だが、浜田の連隊はシンガポール陥落の後すぐペナン島、ボルネオ、ジャワ、ポトモレスビーへと転戦して行った。これは歴史が証明している。父が知ろう筈もない。しかし、父も相当に落ち込んでいた。帰り際に玄関で孫文記念館を訪れた感想がビッシリと書かれているノートを見付けた。その中に日本語を見付けた。どうも日本の留学生が書いたらしい。色々と私共が抱いたのと同じ感想が書かれてあるその最後に、一言こう書いてあった。「ごめんさ」と。

多くの日本人は原爆、空襲等を受けた被害者としての反戦運動をしている。これが悪いとは言わない。しかしこれでは、東南アジアの人々に受け入れられる筈がない。過去日本人はアジアの各地で加害者だった事を忘れてはならない。一人でも何も出来ない日本人が例えば軍隊のように群れを成すと、このような愚行を何の抵抗も無く、してかしてしまうと言う恐怖を我々日本人は持つべきである。こういう意識が、私達の心のどこか隅っこに息を殺してジーツと住み着いているのである。

父はシンガポールから帰って半年後に死んだ。父が死んでからこう思った父はあの時、シンガポールを攻撃していたあの頃に死んでいたのではないのかと。確かに終戦間際に帰国し、結婚し、子供を作り、仕事をし、七十才になる迄生きたがもうとつくの昔、戦争中、シンガポールのどこかで戦友と一緒に死んでいたのではなからうか。死んだはずの父が、生き続けることはきつと辛かったに違いない。

父が死んだその翌年の夏、父の供養をかねて妻や子供達を連れてシンガポ

ールに行き、父と一緒に見た各地の戦争の跡を見せて回った。この時、さすがに孫文記念館には行けなかった。子供に見せるにはあまりにも惨めすぎた。幼い子供に落とす影響の大きさを恐れた。

ジョホールバル水道は、その日もとても暑かった。車や人々がバタバタと行き交うがその一角はとても静かだった。ジョホールバル水道を越えた向こうに見えるシンガポールの森の緑を見ながら、父はやつと死ねたんだな”と思った。

### 戦争体験記

#### 「支那事変」

本郷 増田長之助

昭和十三年一月現役兵として姫路騎兵第十聯隊に入隊、朝に夕に白鷺城を仰ぐ練兵場で乗馬、索馬、貨車積馬絡具を着け、ウインチで船舶搭載等の毎日でした。特に乗馬訓練は徹底したもので騎兵にとって馬は命、お尻の皮は破れて膝の内側も血が吹き出して袴下にひつつき、便器をまたぐのも一苦勞

夜の入浴時には、湯上りに全員がお尻を上に向け一列に並ぶ。班長がヨーチンをぬる。跳び上がる程泌みるとすぐに古兵が凍りつくような冷水をぶっかける。薄皮が出来てもまた翌日の訓練でまた破れ、毎日同じ事を繰り返して皮膚も丈夫になり、傷も出来なくなるのです。

犬猫より大きな動物に触れた事も無い自分は、馬の手入れや飼育に戸惑いを感じたが日が経つにつれ、可愛くなつて来た。

一カ月程の訓練後、姫路より貨車積広島へ、広島から宇品港まで索馬で、宇品で輸送船にウインチ積、そして出港し、朝鮮の仁川に陸揚げ貨車積をして京城竜山の聯隊へ入った。本格的な訓練後、五月初旬愈々北支那方面に出動命令が出る。

山西省に入って鉄道事情も悪く、山中を行軍して行くと、敵の迫撃砲や銃弾が飛んでくる。いよいよ戦場に来たと言う自覚と、身の引き締まる思いを深くした。

運城で自分達初年兵三十名は師団司令部衛兵に配属になり、本隊と別れた

この運城も砲弾が飛んで来る状況下に  
あった。城壁の警備にあたりと望楼に  
覚悟の詩が墨で書かれていた。当時の  
状況をよく物語っている。

敵は増し緑は繁り 月いまだいでず  
弾薬つきれど 援隊を乞はず  
なれど敵弾城壁をゆるがす

糧秣にかえん 犬まだ多ければ  
粉骨碎身もつて君国に報ぜん  
戦況も追々好転し、黄河々畔掃討策戦  
も展開、一応安定した状況となった。

敵情偵察も任務の中にある馬を利用  
するので四、五kmの距離の偵察もす  
る。五、六百m前方にこんもりした部  
落があれば馬が両耳を立てて、警戒し  
て止まる。やがて銃弾が飛んで来る。  
馬は敏捷に我々を物陰に誘導する。こ  
の時、頼りになるのが馬である。絶対  
に馬から降りるな。命を失うからと教  
えられている。

司令部の復員下命と共に原隊に戻る  
支那事変の勲功により、勲七等旭日章  
を拝受する。

時の移り変わりに従い、機動力を利  
用する捜索部隊となって軍旗を返納し  
伝統ある騎兵隊は消滅した。軍旗祭の

思い出はいろいろあるが、馬による曲  
芸がかつた催しは、一般市民の人気の  
的で沢山の人で営庭は賑わった。

下市集会所竣工す

下市 森 守

下市自治会員の多くが希望しており  
ました集会所が完成、竣工式が去る八  
月二十七日行われました。林の原田幸  
夫さん所有の作業場を無償で借り受け  
て、改造して出来たものです。事業費  
を御寄付いただいた会員、現物寄付を  
下さった会員やその他の方々、そして  
建設委員の皆様は厚く御礼申し上げます。  
尚、この集会所は新築ではありません  
せんので市からの補助金はありません  
でした。気軽に御利用下さい。

第十回東京石見高山会総会

参加者募集!

今回は記念総会ですので高山神楽団  
も出席し演技を披露いたします。観光  
バスで行きますので、参加希望者は公  
民館もしくは各自治会長さんの方へ九  
月二十二日までにご連絡下さい。

\*\*\* 九月の行事予定 \*\*\*

◆8日(木) ダイヤゾーンボール教室

◆11日(日) 福祉弁当

◆11日(日) 福祉施設訪問

◆13日(火) 子宮ガン検診

◆15日(木) 大代町敬老会

◆25日(日) 町民運動会

◆29日(木) 乳ガン検診

◆29日(木) フォークダンス教室

★—★ おしらせ ★—★

◎赤ちゃん おめでとう!

上市 島山直文さん さち子ちゃん  
千鶴さん

◎大代公民館から

都市交流会において御寄付を頂きま  
した。厚く御礼申し上げます。

東京石見高山会様 関西高山会様

長谷 満様 縄手光雄様

宇井好恵様 奥田房市様

藤田権現様 高崎 章様

藤田薫郷様

◎暑い先月、公民館の和室に大代婦人  
会様よりエアコン一基の御寄贈を頂  
きました。今年の暑さではとても嬉  
しい贈り物です。大切に使用して頂  
きます。有難うございました。

